

## ニッポン学びの海プラットフォーム会合（第1回）議事概要

- ◆ 日時：令和4年12月19日（月） 15時00分～16時30分
- ◆ 開催形式：web会議（Teams）
- ◆ 参加者：資料4参照

### 1. 議題1. ニッポン学びの海プラットフォーム会合の開催について

[内閣府が資料1-1、1-2に基づきニッポン学びの海プラットフォーム会合の設置及び進め方（案）について説明を行い、了承された。]

### 2. 議題2. 第3期海洋基本計画における海洋教育に関する取組の紹介

[内閣府が資料2-1、文科省が資料2-2、国交省が資料2-3、笹川平和財団が資料2-4の説明をそれぞれ行い、以下の意見交換が行われた。]

- 発表していただいた内容は第3期海洋基本計画期間の取組であるが、これらは第4期以降も続けるのか。取組を数字でみることができると進捗が把握しやすいが、それは可能か。府省、機関間で連携していけるところはあるか。
- コンテンツは十分あるのではないかと感じた。一方で世論、特に若年層や児童、教員などの「客」の目線が足りていない。今後やるべきことは、コンテンツを利用して、彼らの心に伝わる仕組みを作ることである。どのようなサービスに組み込めば彼らがクリックするか、どのようなコンテンツであればアクセスするかについて、数字を解析することは可能であろう。パイオニアスクールを見ていて感じたことは、彼らが見たいものとのギャップがあるということである。彼らは皆、海の生物が見たいと思っており、特に小学生にとって良いコンテンツは多くあるが、連携機関の中に水族館と博物館が非常に少ない状況にある。一方で海するでは水族館、博物館の連携が多い。見たいものと提供できるものにミスマッチがある理由は比較的簡単で、水族館の職員が忙し過ぎるからである。水族館、博物館の役割としては「種の保存」、「教育」、「調査研究」、「レクリエーション」があるが、私の目から見た現実の活動状況は、「レクリエーション」が9割、「種の保存」が1割程度で、教育に割ける時間がほとんどないよう見受けられる。そこに資金を投入すれば水族館、博物館をレバレッジできると思う。
- 国交省では子ども向けの動画をYouTubeに掲載しているが、海事局のホームページに動画のリンクを掲載しているだけなのでなかなか広まらず、視聴者が増えない。本省と地方運輸局が市の教育委員会に見て欲しいと投げかけているが、なかなか伝わっていない状況である。「海の日」にはサンリオと組んで、クルーズ船の紹介に関する動画を載せた。海事局のHPだとアクセスする人が限られるが、キティチャンネルに載せるとキティチャンネルの視聴者を引っ張って来ることができる。海事局のホームページの中でと

どまっていると視聴者数には限界があると思っているので、文科省の協力等があれば認知度は高まるのではないかと思っている。

- JAMSTEC や極地研の広報活動そのものは引き続き行っていくことになると思う。数の把握に関しては、人的リソースなどの観点から、どこまで実施できるかは今後の検討が必要。連携については、教員の負担にはならない形でどのように動画等のコンテンツを有効に活用していけるかを考える必要がある。
- 問題意識としては皆同じだと感じた。あとはコンテンツをどうやって繋げ、どのように広げていくか、ということになる。情報の集め方、まとめ方をどうするかというところであるが、恐らくポータルを作っても、そこにアクセスしてもらうことが必要となってくる。ポータルに至るまでのチラシを作って、色んな人に渡して、受け手にどう響くか、どのようなやり方があるのか検討したい。

### **3. 議題3. 第4期海洋基本計画の検討状況（海洋教育関連）**

[内閣府が資料3の説明を行い、以下の意見交換が行われた。]

- 海洋人材を育てていくことについては、皆異論はないと思うが、How のところが難しい。特に先生を育成するための教育が大事だと感じている。東京都では東京都自然ガイド新規認定講習というのがあり、自然をガイドする人に基本的リテラシーを身に付けてもらうというものである。ガイドに携わる人を教育し、ガイドとして認定することによって、差別化を図り、彼らのガイドとしての安定性を担保する資格になっている。教育する人を教育することが求められていると思う。
- 教員については教員研修で海洋について教えることができるのではないか。
- その点については担当部署と相談したい。

### **4. 全体意見交換**

- 第4期海洋基本計画は第3期とは違う点もある。STEAM 教育の取組の中で海洋を取り上げるなど、既存の枠組みを使いながら海洋教育を盛り上げていく基本計画をまとめていければと考えている。内閣府が文科省、国交省と協力していくこともあると思うので、引き続きよろしく願います。
- JAMSTEC の GIGA スクールの特別講座の紹介があったが、今後、海洋関係で特別講座を実施する機会があった場合、文部科学省から各学校に案内を流すときに、国土交通省、笹川平和財団の取組みも一緒に案内するという事は可能か。
- 担当部署と相談の上、検討したい。
- 港の活動との連携はあると思う。水産で使われている漁港は利用者がおらず、一方で港がないと海にアクセスできない。インフラとしては優秀であるので、一般に開放して使ってもらい、海業の一環として港を共有財産として使っていくことで、人々がより海に

リーチし易くなるのではないか。東京湾の一部でも一般の人がアクセスできる場所があれば、海へ親しめるのではないか。

- 海運、造船、コンテナヤードなどは国土交通省が管轄しているが、それ以外は地方自治体が管理しているところもある。
- 一般の人が見ることができないものを、映像で見られたら非常に面白いと思っている。
- 港湾施設、船舶をアウトリーチに加工するところ、人々の目に見えるようにすることは良いアイデアだと思う。また海に関心を持った人のキャリアパスを描くことも大事である。現在日本では、ポストクや博士の学生の数が減ってきている。海の専門性を持っている人が、ある程度のキャリアパスまで行って、それ以上先には行けないというのは問題である。ロールモデルがほんの少しでもあれば、状況は違ってくると思う。
- ポストクや、博士課程への進学率減少は、海洋分野に限った話ではない。文部科学省としても、海洋も含めて全体とした対応を考えている。関係省庁と連携して、キャリアパスを描けるような情報発信を検討していくことが大切。
- ロールモデルの事例があるかどうかということを、省庁に照会することができるのではないかと考えている。内閣府らしい取組だと思っているので、検討してみたい。
- キャリアパスだと大学、高等教育以上が対象になる話であるが、その前段階として小・中学校、義務教育がある。そこでより海に関心を持たせ、学びに役立つものとして動画などのコンテンツがあると思っている。コンテンツの紹介にしても、ただそれらの所在や概要を一覧の形で見せるだけでなく、先生方の負担軽減の一助として、各コンテンツがどの学年のどの教科、単元に関連しているのかを示すことは大事だと思っている。
- パイオニアスクールプログラムのウェブサイトの中で、省庁等の海洋教育コンテンツを案内することは可能である。

以上